

病院機構収支決算 コロナ補助金等で50億円超の黒字 黒字はコロナ禍で奮闘する全ての病院スタッフに還元すべき

黒字を還元し、地域手当・ボーナス引上げ、看護師等のスタッフの大幅増を

病院機構は「令和2年度資金収支決算」を公表しました。コロナ禍のため、医療収入（入院収入、外来収入）は当初計画の849・8億円を49・2億円下回り、800・5億円となっていますが、新型コロナ関連等の補助金等が、当初計画1・9億円を93・7億円上回り、91・8億円となりました。その他にも資本収入（医療機器購入後、資産になったもの）も当初計画を11・8億円上回るなど、全体として52・7億円の黒字決算となっています。

経営黒字はスタッフの必死の努力の結果

この1年間、各センターでは、大阪府の要請によるコロナ患者の受け入れや重症センターへの医師や看護師などの派遣も行ってきました。また、院内での感染防止対策も取りつつ、応援体制で少ないスタッフでの対応など、まさに全てのスタッフの協力によって対応してきました。

今回の収支決算での50億円を超える黒字は、全ての病院スタッフに還元すべきです。

今すぐ府職員に準じた地域手当の引上げを

この数年間、府立病院機構はいつも「経営が厳しい」を口実にして、一時金（ボーナス）の引上げも府職員より遅らせてきましたし、現在も地域手当の引上げは行っていません（府職員

は11・8%、病院機構は11%）。また、今回のコロナ禍の中、病床を確保したとしても医師や看護師が足りないという事態もあらためて明らかになりました。府職労・病院労組は、あらためて病院機構に対し要求書を提出し、基本給・地域手当の引上げ、一時金（ボーナス）の引上げ、

看護師をはじめとするスタッフの大幅増を求めて取り組めます。みなさん、労働組合に加入し、現状を変えるために、いっしょに声をあげませんか。

令和2年度 資金収支決算

科目	法人合計 (単位: 億円)		
	当初計画	実績	増減
営業収入	906.9	949.6	42.7
医療収入	849.8	800.5	▲ 49.2
入院収入 (入院診療による診療収入)	556.3	516.2	▲ 40.1
外来収入 (外来診療による診療収入)	251.0	240.0	▲ 11.0
その他 (薬剤差額・文書料・治療等の収入)	42.5	44.3	1.8
運営費負担金収入 (他の病院では実施が難しい医療や、不採算な医療、大阪府の医療政策上の事業を実施するための大阪府からの運営費負担金)	55.2	55.3	0.1
補助金等 (救急医療対策、がん診療連携拠点病院、新型コロナ関連等の補助金や寄付金)	1.9	93.7	91.8
営業外収入 (利息収入、駐車場料金の収入)	9.4	8.6	▲ 0.8
資本収入 (医療機器購入後、資産になったもの)	56.2	68.1	11.8
その他の収入	0.0	0.0	0.0
収入 合計	972.5	1,026.2	53.7
営業支出	892.3	880.2	▲ 12.0
医療支出	881.7	869.2	▲ 12.5
給与費 (職員の給与)	414.2	418.9	4.7
うち退職給付	13.3	11.9	▲ 1.4
材料費 (医薬品・診療材料・衛生材料)	282.5	273.3	▲ 9.2
経費 (委託費、賃借料、消耗品費、光熱水費)	174.8	167.6	▲ 7.2
研究研修費 (臨床研究等にかかわる支出)	10.2	9.3	▲ 0.8
一般管理費 (本部の運営経費)	10.5	11.0	0.4
営業外支出 (支払利息)	2.7	2.7	▲ 0.0
資本支出 (医療機器の購入費用、工事費)	80.7	93.7	13.0
その他の支出	0.0	0.1	0.1
支出 合計	975.7	976.7	1.0
資金収支差	▲ 3.2	49.5	52.7
延入院患者数	833,955人	717,465人	▲116,490人
入院単価	66,703円	71,949円	5,246円
延外来患者数	1,067,759人	959,513人	▲108,246人
外来単価	23,510円	25,016円	1,506円



←組合加入はこちらから